

ITU-D SG1 副議長 (WTDC-14 選出(新任)) 川角 靖彦氏 (日本ITU協会) に聞く

【読者のための豆知識】

SG1 (第1研究委員会)の活動内容：
電気通信/ICT開発のための環境整備

=== ===

専門領域: 電気通信技術、国際協力

略歴: 1961年 慶應義塾大学工学部電気工学科卒業
1961年 国際電信電話株式会社
1984年 メイトランド委員会専門委員会議
1988年 メルボルン CCITT 総会
1989年 ニース全権委員会 以後、ミネアポリス、マラケシュ、グアダハラ、釜山
全権委員会議に参加
1998年 マルタ世界電気通信開発会議 以後、イスタンブール、ドーハ、
ハイデラバード、ドバイ世界電気通信開発会議
その他世界無線主管庁会議、CCITT/CCIR 会合、世界テレコム等に参加
1999年 ルーラル通信のための新技術ラポータ
2002-2014年 ルーラル通信のラポータ
2015年 ITU-D SG1 副議長就任(現在に至る)

=== ===



— WTDC-14 から早3年弱が経ちましたが、重責を担われていることについて現在の率直なお気持ちは？

(川角) ITU-D 会議に対する我が国セクターメンバーの出席が少ないのが気にかかっていましたが、ITU 協会のジャーナルに会合報告を毎回掲載して頂き、少しずつではありますが、理解が深まってきていると感じています。最近、途上国市場の重要性について取り上げられるようになって来たことも影響していると思われます。

— ご専門領域とご経歴、ITU(SG)との係わりなど、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(川角) これまで KDD(現 KDDI)において国際関係、国際協力関係の仕事に関わってきた経験が大いに役立っています。技術面では通信の現場で伝送、交換、ネットワーク運用、衛星通信技術、海底ケーブル技術、途上国支援、研修生の受け入れなどに関わった経験が大いに役立っています。ITU 会議で CCITT 勧告の作成、無線規則を審議する会議に関わったことも役立ちました。

— 今秋 WTDC-17 に向けて今研究会期の纏めの時期となっています。副議長としてリーダーシップを発揮されていくこととなりますが、今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事でしょうか？

(川角) 途上国がブロードバンド技術、新サービスの恩恵を享受し、その効果による経済開発を通じ、国の発展に役立てようと熱心に会議に参加するようになりました。特に資源国は豊かになったので、ITU-D 会議だけでなく、ITU-T/R の会議にも自前で出席するようになりました。世界の通信業界の動きにも大いに興味を持っています。このような途上国の要望に応える次研究期の課題の作成を目指したいと思います。わが国からの参加、寄書の提出が増えると良いと思います。

— 副議長としての目標達成のためにどのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(川角) 途上国ではまだブロードバンドが十分普及していません。持続可能な開発目標(SDGs)に向かってITU-Dの作業は大いに期待されています。途上国のニーズに適った研究作業計画をWTDC-17で作ることが重要だと思います。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(川角) 途上国と一概に一括りにできないところが難しいと思います。情報格差があります。幅広い要求にこたえてゆくのが難しいところです。ITU-D に出席する代表はともすると最新の技術知識、情報を有しています。母国ではデジジョンメイキングをできる立場の人がいます。一方では、ICTの発展から取り残された国の人達もいます。幅広く、忍耐強く接することが必要です。

— わが国の政府関係や ICT 産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(川角) 日本の技術をひけらかすことなく、丁寧に途上国のニーズに耳を傾け、応えてあげることが大切です。途上国側の我が国に対する信頼は高まってきています。南米やアフリカの国の代表の中には、かつて日本で長期研修を受けたという人達が沢山います。日本語の片言を話して懐かしがります。なぜ、日本はアフリカに来てくれないのかとよく言われます。ITU 協会の New Breeze 誌の情報はとても喜ばれています。

— 途上国の政府や事業者などとの協調・協力が不可欠だと思いますが、副議長としてこうした加盟国(事業体)に対して期待することはどのようなことがありますか。

(川角) むしろ我が国の方から積極的に近づいてゆくことが大事だと思います。ITU-D の途上国代表の人達は母国では要職にある人が多いです。教養もあり、世界の情勢もよく知っています。こちらもよく勉強しておかないといけないと常々感じています。中央アジアの国の代表の参加も多いです。太平洋島嶼国も大事です。地理的、歴史的な関係をよく勉強しておかないと恥をかきます。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(川角) ITU の会議では単に言葉だけでなく相手国の歴史や文化を勉強しなければと痛感しています。世界の情勢にも明るくなければだめですね。ニュースをよく見て、音楽もよく聞きます。技術だけでは話がつづきません。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(川角) ITU の会議に参加する途上国、先進国の代表とハグを伴っての挨拶ができる関係を築ければと思います。食事に一緒に行けるくらいにならないと、いろんな問題について腹を割って意見交換できませんね。支持を要請して応えてもらうことも難しいですね。人間の相性という問題があります。過去の経験から標準化や国際交渉がうまくいった例では相手と相性が合っていると成功します。相性の合う人を探すのが大事です。そういう状況に持ってゆくことも大事です。相性が合うことを英語では Chemistry が合うというそうです。化学反応ですか。ビジネスでも同じですね。

長期にわたりITUの諸会議に係わってきました。中でも思い出に残っているのは、メイトランド委員会では我が国の小林宏治代表(当時 NEC 会長)の専門委員として、国際電話料金の一部を開発援助に充当しようという動きが英仏を中心にあり、何とか阻止しようと頑張った、メイトランド委員長から名前を覚えられました。その後ルーラル通信の新技术に関し、ラポータとして報告書に巻頭言を依頼したところ快く寄稿して呉れました。その上、報告書を、エセックス大学のミッシングリンクレポート関連のアーカイブに保存して下さるとの便りをいただきました。とても良い思い出です。